

# 石材の可能性を発信

## JAPAN SHOP・建築建材展に 石材業界からも複数社が出展

3月3日～6日まで東京ビッグサイトで開催された「JAPAN SHOP 2026」(主催「日本経済新聞社」)に石材業界からも複数社が出展した。総来場者数約7万人という展示会で、日本の銘石のブランディングから施工の省力化を実現する最新システム、

内外装材を提案。ブース内のモニターでは、この展示会に合わせて制作さ

れた同社や庵治石産地を紹介する動画が上映された。天然石ならではの素材感と、重量物を建築に取り入れる高度な技術の展示に、多くの来場者から質問が寄せられている様子などが見られた。

「建築・建材展」には関ヶ原石材(株)(本社「岐阜県関ヶ原町」と矢橋大理石(株)(本社「岐阜県大垣市」)が出展した。

関ヶ原石材(株)のブースではイタリア製の大判陶器タイルを紹介しつつ、自然石による建材の提案に力を注ぐ構成となっていた。多様な意匠性と機能性を兼ね備えたラインナップは、現代建築の幅広い要望に応える同社の姿勢が感じ取れ、多くの来場者がブースで説明を受けていた。

矢橋大理石(株)のブースでは、薄くパネル化した自然石の板石をビス留めでも容易に施工できる新システムを紹介。石工事での課題となる「石の重量」と「熟練工の必要性」を、軽量化と簡易な工法によって解決する同システムは来場者の高い関心を集めていた。

3社のブースともに多くの来場者が熱心に説明を聞く姿が見受けられ、新たなユーザーの開拓や石材の市場創造の可能性が感じられるものとなっていた。



有)石材商 太元屋のブース



関ヶ原石材(株)のブース



矢橋大理石(株)のブース

海外産の大判パネルまで、建築業界のニーズを捉えた展示が来場者の注目を集めた。

「JAPAN SHOP」には香川県・庵治産地から有)石材商太元屋が出展。日本由来でデザイン性の高い商品が選出された「NIPPONプレミアムデザイン」エリアにブースを構えた。

同社は出展テーマに「Build with 庵治石」を掲げ、庵治石を用いた建築の